笠間市　地域包括支援センター
KASAMA

Vol・R7.7.31

包括ケア会議だより

こんにちは。笠間市地域包括支援センターです。
いよいよ本格的な夏がやってきましたね。皆様いかがお過ごしでしょうか。
さて、個別事例検討会議を７月に開催し、「本人が希望する支援を夫が拒否してしまうケース」について話し合いました。本人に関わるケアマネジャー、福祉用具事業所、社会福祉協議会等が参加しました。

☆本人が希望する支援を夫が拒否し必要な支援につながらないケースについて検討

本人は腰椎骨折により現在、福祉用具を利用しています。在宅で安定した生活を送る為には、本人の希望も含め他のサービス利用が必要ですが、一緒に暮らす夫に支援を拒否されています。夫は本人の緊急時には、「どうにかしてほしい」と強い訴えをしてくるもののいざ医療やサービスの調整を行うと直前でトラブルをおこし必要な支援へスムーズに繋がらず、支援者も苦慮されています。

参加者からは、「夫の話をよく聞ける関係性の人がいるか」、「今後、本人だけでなく夫に対して娘や孫の力がかりられるのか」、「助けを求められるのであれば今は生活を見守ることも必要ではないか」など様々な意見が上がりました。これらの意見を参考に、今後ケアマネジャーを主導として夫の周囲との関係性の情報収集・娘と孫の協力を得て夫のもの忘れに対しての受診勧奨・本人の緊急時対応の確認などを行うことになりました。

今回の検討を通して、現時点では何か支援を調整することに力点を置きすぎず、再度本人に関わる家族のアセスメントを行い必要なことを伝えながら、今の関係性を保ち見守りを継続していくことも必要だと感じました。

＊＊６月の検討事例の経過報告＊＊

★「施設入所を拒否して孤独死した、身寄りのない独居高齢者について」
本人の生活状況、健康状況に加え、意思の変化にも注意すること、また消防署の助言等をふまえ、各事業所における緊急対応マニュアルの見直しも必要であることを学びました。

検討事例募集中
困難事例でお悩みでしたら、一緒に事例検討しませんか？
下記までご連絡よろしくお願いいたします。

笠間市地域包括支援センター　TEL　0296-78-5871